tarl TOKYO ART RESEARCH LAB

東京プロジェクトスタディ

「つくる」ためには、時間が必要だ。
ある人との出会い。誰かのつぶやき。歩いたり、寝転んだり、
立ち止まったりしてみること。そうしたささやかなひとつひとつが、
「つくる」ための脈々たる時間の中にある。
それらが交差したりぶつかったり重なったりするなかで、
一年後、数年後、数十年後のプロジェクトにつながる
手がかりや回路が導き出されていく。
まだ見ぬアートプロジェクトの「核」をとらえるために、
「つくる」筋力を養うスタディ。さまざまな表現者の抱える
問題意識や追求したいことを出発点に、
チームを立ち上げ、議論、リサーチ、試作を重ねる。
異なるアプローチで実践する3つのスタディ。
各チームへの参加者募集!

思考と
技術と
対話の
学校
2019

東京プロジェクトスタディ

tarl TOKYO ART RESEARCH LAB

アートプロジェクトの「核」をつくる3つの実践

参加者募集中！7月21日［日］申込〆切

“東京で何かを「つくる」としたら”という投げかけのもと、
3組のナビゲーターそれぞれが、チームをつくり、
約半年間かけてスタディ（勉強、調査、研究、試作）を展開。
各スタディの参加者を募集します！

集まる・話す・聞く・歩く・調べる・考える・試す を重ねる

8月 9月 10月 11月 12月 2020年1月 2月

キックオフ

11月10日［日］共有会1

1月19日［日］共有会2

※共有会は3つのスタディ合同で開催

募集人数	各スタディ10名程度
参加費	一般：30,000円　学生：20,000円／約6ヶ月 ［フィールドワーク等の交通費、飲食費は別途実費］
説明会開催！	日時：2019［令和元］年7月6日［土］13時–15時 会場：ROOM302［3331 Arts Chiyoda 3F］
https://tarl.jp/	申込・スタディの様子はWEBで

1 続・東京でつくるということ

——「わたしとアートプロジェクトとの距離を記述する」

アートプロジェクトは誰のもので、何を目指すのか。多くの人が現場で直面するこの問いについて、「記述する」ことを通して考えます。さまざまな立場の人が関わるプロセスそのものが作品として提示されるとき、鑑賞者はもちろん記録者（カメラマン、ライター、編集者）や批評家も、純粋な観察者ではいられません。こうした場面ではしばしば、文化人類学等で用いられる「参与観察」という手法が参照されますが、その際、観察者が自身の背景や身体性と向き合い、対象との距離を明らかにすることが大切です。つまり「プロジェクトを観察・記述する」と同時に「自分を観察・記述する」ことが必要になるのです。
このスタディでは、2019年秋に東京で行われるアートプロジェクトを事例として取り上げ、参加者は「観察者・記述者」として現場に立ち会います。異なる背景を持つ参加者同士の視点を交換しながら、ひとりひとりが「東京でつくること」について考えていきます。

活動キーワード　□ ワークショップ（書き方、視点）　□ ディスカッション
□ リサーチ（プロジェクトへの見学など）
□ 企画書作成（レポート執筆について）　□ レポート執筆

対象
- アートプロジェクトの記録と発信に興味・関心があるひと。
- プロセスを重視する表現に関心があるひと。
- 文章を書きながら、ものごとを思考し捉えていくことに興味・関心があるひと
- 新たな企画の展開を模索しているひと。

ナビゲーター　**石神夏希**
劇作家／ペピン結構設計
NPO法人場所と物語 理事長
The CAVE 取締役

劇作家。「ペピン結構設計」を中心に活動。近年は国内各地や海外に滞在し、都市やコミュニティを素材とした演劇やアートプロジェクトを手がける。『Sensuous City［官能都市］』（HOME'S総研, 2015）等調査研究、NPO法人『場所と物語』代表、遊休不動産を活用したクリエイティブ拠点『The CAVE』設立など、空間や都市にまつわるさまざまなプロジェクトに関わっている。「東アジア文化都市2019豊島」舞台芸術部門事業ディレクター。

江戸時代から雑司が谷のまちに伝わる伝統行事「鬼子母神 御会式（おえしき）」の様子。 撮影：鈴木竜一朗

スタディ活動予定　8/24［土］　9/4［水］　9/7［土］　10/26［土］
11/23［土］　12/7［土］　1/11［土］
「Oeshiki Project」*10/16［水］·17［木］·18［金］のうちいずれか1日以上
※9月～10月半ば　フィールドワーク等（不定期・随時）

2 東京彫刻計画

——2027年ミュンスターへの旅

街には彫刻があります。銅像・パブリックアート・モニュメント…。しかし、とりわけ東京だと普段は見逃しがちなものです。確かにそこにあるのだけれど、無意識に、見ていない状態。その理由は、東京という街と私たちとの独特な関係性にあるように思います。言い換えると、公共彫刻には、私たちが街と接する（またはしない）ためのヒントがあるのではないでしょうか。
そこでこのスタディでは、「『東京彫刻計画』という芸術祭が、10年に1度東京で行われている」というフィクションをつかって、私たちの周りにあるさまざまな彫刻をリサーチします。大きな時間の流れの中で街を見ていくとき、街と作品と私たちの関係はどのように浮かび上がってくるでしょうか。そしてあらためて今、どのような関係がありうるでしょうか。この問いは、私たちの東京での感覚やからだの在りかたを考えることにも繋がります。傍らでは「ミュンスター彫刻プロジェクト」（※）の変化を参照しつつ、パフォーマンスの視点から公共彫刻を探ります。最終的にはリサーチをふまえた小規模の作品創作を目指します。
※ドイツ北西部の都市・ミュンスターで1977年から10年おきに開催されている芸術祭。

活動キーワード　□ 彫刻　□ まち　□ 芸術祭　□ リサーチ
□ ディスカッション　□ クリエイション（上演・イベント等）

対象
- 公共空間の作品、銅像・パブリックアート・モニュメント・キャラクター像などに興味関心があるひと。
- 時間・空間・からだ……などのさまざまな視点で公共彫刻を探ってみたいひと。
- （日本だけではなく）さまざまな芸術祭・アートプロジェクトに興味をもっているひと。
- ユーモアをもって、創作のプロセスを探りたいひと。

ナビゲーター（アーティスト）　**居間 theater**
パフォーマンスプロジェクト
東彩織／稲継美保／宮武亜季／山崎朋

演劇やダンスを背景にもつメンバーを中心に活動。現実（日常）にある状況やふるまいとパフォーマンス（非日常）を掛け合わせ、誰でも参加可能でありながら、現実を異化させるような独特の体験型作品をつくる。

ナビゲーター（プロジェクト構造設計）　**佐藤慎也**
建築家、日本大学理工学部建築学科教授

ツアー型作品の制作協力や、まちなか演劇作品のドラマトゥルク、アートプロジェクトの構造設計など、建築にとどまらず、美術、演劇作品制作にも参加。

東京プロジェクトスタディ「2027年ミュンスターへの旅」リサーチの様子、2018年。 撮影：加藤甫

スタディ活動予定　8/4［日］　9/11［水］　9/29［日］　~~10/16［水］~~ 10/21［月］
10/26［土］　11/13［水］　11/30［土］　~~12/11［水］~~ 12/4［水］
12/22［日］　1/18［土］
※水曜は19:00-21:00、週末の時間は後日決定
※ナビゲーターの活動の都合により、一部日程が変更になりました。

3 ‘Home’ in Tokyo

——確かさと不確かさの間で生き抜く

「ここは自分の‘Home’だ」という感覚は、何によってもたらされているのでしょうか。それは、他者や生き物やモノと関わりながら暮らしを営む中で、芽生えるものかもしれません。一方で、関係性の変化や予期せぬ出来事によって、その感覚が失われることもありえます。そのように考えると、「自分の‘Home’」という感覚は、確かさと不確かさの間で揺れ動く、変化と可能性に満ちたものと言えます。
東京は、全国の中で最も移動者数が多い流動的な都市です。進学、家族の事情、仕事、災害など、多様な理由により東京で暮らす人がいます。彼／彼女にとって、‘Home’とはどのような意味で、何によって成り立っているのでしょうか。さまざまな環境や条件の中、自分の‘Home’と感じられる工夫をして生き抜く、人びとの日々の実践に着目します。このスタディでは、自分や他者にとっての‘Home’のありようを理解するための態度や方法を学び、映像作品（プロトタイプ）をつくります。

活動キーワード　□ ゲストトーク　□ ディスカッション　□ 実験
□ フィールドワーク　□ 映像制作　□ 上映

対象
- 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人びとの暮らし方を尊重し、学びたいひと
- 他者の暮らし方について学び、映像で表現するための方法や態度について、実践しながら考えてみたいひと
- この「スタディ」を通して出会った人びとと協働して、映像作品（プロトタイプ）をつくることを想像するとワクワクするひと
- カメラ（もしくはカメラ機能付きのモバイル端末）とPCを持っていて、それらを使って作業できるひと
（映像の撮影、編集経験がない方も歓迎します）

ナビゲーター　**大橋香奈**
映像エスノグラファー

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士（政策・メディア）。国内外で20回の引っ越しを経験したことから、博士課程では「移動」の経験と「家族」のあり方に関する映像エスノグラフィー研究を実践。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科助教（有期・研究奨励I）および、慶應義塾大学、女子美術大学、実践女子大学にて非常勤講師を兼任。

東京の団地で暮らすビバスさん一家がネパールの祭り「ダサイン」を祝う様子　撮影：大橋香奈

スタディ活動予定　8/17［土］　8/31［土］　9/7［土］　9/28［土］
10/5［土］　10/ 26［土］　11/2［土］　11/16［土］
12/7［土］　12/21［土］　1/11［土］

会場：ROOM302（3331 Arts Chiyoda 3F）東京都千代田区外神田6 -11-14 302　ほか　※各スタディは内容変更や活動日を追加する場合があります。

スタディマネージャー

アートプロジェクト運営経験のあるアーツカウンシル東京プログラムオフィサーがスタディに伴走します。都内アートNPOと協働で展開する東京アートポイント計画事業で蓄積されたノウハウを活用しながら、学びをサポートします。

スタディ1
嘉原妙

スタディ2
坂本有理

スタディ3
上地里佳

スタディの特徴

1. スタディのやり方・内容は、つくりながら展開します
2. 答えではなく、問いや、もやもやを大事にします
3. 企画や作品など「かたち」にすることを必須とはしません
4. 新しいことを生み出す身体感覚を身につけます
5. 「つくる時間」をつくるスキルを身につけます
6. つくるコミュニティを形成します
7. スタディの学びを重ねる環境があります
（スタディルーム／ ROOM302）※要予約

こんな人におすすめ

- □ アートプロジェクトを「つくる」ことと向き合いたいひと
- □ アートプロジェクトの新たなアプローチを模索しているひと
- □ 各スタディのテーマにチームで取り組むことに関心があるひと
- □ ご自身の活動と向き合ったり、今後の活動のヒントを探ったりしたいひと

アートプロジェクトの現場経験は問いません

TARL「思考と技術と対話の学校」

アートプロジェクトの担い手のためのスクールプログラム。実践的な学びの場「スタディ」、アートプロジェクトに関わるための基礎をおさえる「レクチャー」、プロジェクトを行う上で新たなヒントを得る「ディスカッション」の3つのプログラムを展開します。

主催／お問合せ

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
e-mail: tarl@artscouncil-tokyo.jp　tel: 03-6256-8435（平日10:00–18:00）

ARTS COUNCIL TOKYO